

彩の国 連携力育成プロジェクト ニュースレター 第8号

2015年7月31日発行



【発行】 埼玉県立大学／埼玉医科大学／城西大学／日本工業大学

【お問い合わせ先】 埼玉県立大学事務局・企画担当 ☎ 048-973-4715 / ✉ kikaku@spu.ac.jp



三浦学長
(埼玉県立大学)



別所学長
(埼玉医科大学)



森本学長
(城西大学)



波多野学長
(日本工業大学)

彩の国大学連携学長会議開催！

2015（平成27）年6月25日、大宮ソニックシティにおいて彩の国大学連携学長会議が開催されました。平成26年度の事業や、中間評価についての報告が行われました。協議事項には、平成27年度事業計画に加え、本プロジェクト終了後も引き続き各大学の教育内容へ事業成果を反映させることについて承認されました。

専門職連携実践（IPW）や専門職連携教育（IPE）に関して数多くの事業を企画・試行し続けてきた本プロジェクトですが、今回の学長会議の報告の目玉は、昨年度に起こった2つの大きな変化についてでした。変化の1つ目は、埼玉県立大学における4大学連携「IPW実習」の正規科目化です。本プロジェクトでは、最終的に連携科目を4大学で正規化し、“お互いからお互いのことを”学べる仕組みづくりを目指していますが、今回の一部正規科目化により、平成28年度のプロジェクト終了時点よりも早い段階で目標が一部達成されたこととなります。変化の2つ目は、本プロジェクトの評価委員会の発足です。本評価委員会は、様々な専門性を有する5名の外部評価委員で構成されています。第1回評価委員会では、事業スタートから現在に至るまでの様々な事業について報告し、進捗状況、取組の質、今後の課題等の観点から、「概ね計画通りである」との評価を受けました。このように4大学では、学長会議をはじめ、顔を合わせた話し

合いで合意形成を重ねながら、事業終了後の持続的な連携教育の確立を目指します。



今年3月に作成された中間報告書をみながら、事業報告に真剣に耳を傾ける4大学の学長。

2015年度共同学習事業

4大学の学生と学ぼう！体験しよう！

4大学の学生が交流しながら様々な学びに触れる機会を作ることを目指して、各大学の教員が自らの専門性を生かしながら、様々な学習活動を企画しました。2015年度の共同学習事業では、この計7回の取り組みを通して、お互いからお互いについて学びます。

「4大学の学生同士、交流する機会がもっとほしい！」「お互いの専門の枠を超えて、学生が学び合えれば」

4大学連携ワークショップや、試行科目など、これまでの事業の中で出された意見をもとに、学生が共に学び合う機会を作ろうと、今年度は各大学の教員が学習企画を持ち寄ることになりました。企画のラインナップは右側の「予定一覧」の通り。普段の大学生活では体験できないような参加型ワークの目白押しとなりました。これらの企画で共に学ぶ学生が、どのような「つながる力」をつけていくのでしょうか？ 各回の活動は、随時ホームページ等で報告してまいりますので、ぜひチェックしてみてください！

共同学習事業 取組予定一覧

- 知的障害を持つ方々と「料理」と「レク」を楽しもう
7/18 場所：埼玉県立大学(実施済)
- リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 川越に
参加してみよう
9/19～9/20 場所：川越水上公園 芝生広場
- 重い障害を持つ方々の「地域での暮らし」を考えよう
9月中旬予定 場所：ケアホームみらい(東松山市)
- 「地域をケアする」ことについて考えよう
11/7 場所：地域ケアよしかわ(吉川市・吉川団地)
- 高齢者を中心とした地域活動
「よりあい・ええげえし」に参加しよう
2016年2月予定 場所：坂戸市内
- ライフプランを考えよう～人生をデザインする
開催日・場所 未定
- 1年間の学びを振り返ろう
2016年3月上旬予定 場所：さいたま市内

interview

『連携を語る』

さまざまな分野の方にインタビューを行い、連携の魅力や課題などを語っていただきます。今回のゲストは、昨年「IPW演習(緩和医療学)」に模擬患者としてご協力くださった、須田正子さんです。

「患者さん、すごく苦しそう」。「患者さん」を訪ねた学生も、共感からか、苦しそうな表情。しかし実は、相手は本当の患者さんではありません。

平成26年度のIPW演習(緩和医療学)では、須田正子さんも含めて3名の模擬患者さんにご協力いただきました。城西大学の模擬患者講習の一期生、ベテランの須田さんですが、IPW演習は、今までとは少し勝手が違ったようです。

「『自宅に手すりはあるか』と尋ねられました。手すりが必要な病気の想定ではないので、『体は辛いけど、手すりはいらないうえ』と、とっさに返しました」

演習後、“庭いじりが趣味だけど外出できない”自分の役どころに対して、

「屋内で少しでも“外”を感じられる工夫を考えました」という学生の発表を聞いて嬉しかった、と振り返ります。

模擬患者に限らず、様々な社会貢献活動を行う須田さん。その一つ、地域の高齢者が集まれる場「よりあい*ええげえし」では、来年の2月に共同学習事業が予定されています。「専門職が専門知識だけでは活躍できないのが、今の時代。学生のうちに様々なことを体験してほしいと思います」



須田さんの迫真の演技。学生の学習態度は一層真剣なものに。



地域のボランティアに積極的に参加する様子を、笑顔で語ってくださった須田さん。

勉強会

終(つい)のすまいを考える

2015年7月7日、勉強会「終のすまいを考える」が開催されました。ゲストとして外山哲也先生（東埼玉病院）をお迎えし、終末期の在宅ケアに関する講演をいただいた後、会場全体でディスカッションし、地域におけるケアについて学びあいました。

七夕の夜。平日の夜にも関わらず、勉強会「終のすまいを考える」の会場は、100名を超える盛況ぶり。4大学の教職員や学生のみならず、保健医療福祉の現場の方や建築の専門家、4大学以外の大学生・大学院生など、様々な立場の方が集う様子が、社会において“終末期の在宅ケア環境”というテーマへの関心が、職種や立場を超えて高まってきていることがうかがわれます。

今回の勉強会の演者は、東埼玉病院の医師・外山哲也先生です。医師であり、かつ一級建築士の資格をお持ちの外山先生は、終末期を在宅で過ごす患者さんたちのケアに日々携わっているのだそうです。ご講演では、実際に外山先生が対応された事例もご紹介いただきつつ、人生の最期を自宅で過ごす患者さんたちに求められるケア環境について、間取り図やお部屋のイラストなどを交えてお話いただきました。

ご講演のあとは、会場全体でディスカッションがなされました。医療や建築の専門職の方々ならではの現場に注目したご感想や、学生さんから文化や生活に密着した視点でのご質問がなされ、勉強会は盛会のうちに幕を閉じました。



会場は満席。会場全体で、熱心に耳を傾け、ペンを走らせる様子がみられました。



「終のすまいは存在しない」!? 外山先生ならではの表現に注目が集まります。

「終のすまい」とは何か、そしてそれはどうあるべきなのか？

喫緊の課題ではありますが、限られた視野からのみでは、この回答に近づくことは困難です。しかし、超領域的な知見をもって、多方面からアプローチすることで、少しずつ前に進む可能性があるのだということを、今回皆様とのディスカッションを通じて改めて感じました。私自身ももう一度考え直してみるいい機会をいただきました。誠にありがとうございました。



今回の講師

外山哲也先生

東埼玉病院 内科・総合診療科医師

勉強会を終えて～参加者の声～

- 終の住まいのあり方、改めて考えられた貴重な時間でした。保健医療福祉サービスだけでなく、こうした環境が大事だということを知り、より様々な職種の連携が必要だと実感しました。会場に様々な職種がいらしたことも新鮮でした。
- 建築学を学んでいるのですが、外山先生のお話を聞き、建築だけの知識で良い建築ができるわけではなく、医療介護等、幅広く知る必要性を再認しました。
- 外山先生のご講演では、“終のすまいはない”という結論でしたが、一人ひとりに合う、終のすまいを模索して、最期を少しでも善い状態で迎えられるようにしたいと思いました。

勉強会の様子は
ホームページから
ご覧いただけます。



2015年度も Saipeの取り組み 盛り沢山でお送りします!

今年度の「彩の国連携力育成プロジェクト」はこれから活動が本格化します。多彩な取り組みの数々に、ぜひご注目ください!

本プロジェクトも今年で4年目。5年目の最後に目指す「4大学連携事業の正規科目化」に向けて、IPWを一貫して学ぶ「彩の国大学連携科目」の整備や、そのほかの共同開講科目、共同研究に取り組みます。

取り組みの報告は随時ホームページ等で発信いたします。また、下記の「IPW実習報告会」をはじめ、どなたでもご参加いただける報告会等もございますので、ぜひとも足をお運びください。

主な取組予定

2015年

8月24～26日

IPW実習

8月27日

IPW実習報告会

9月5～9日(現地)

An International Association
For Medical Education 2015

11月予定

4大学連携ワークショップ

IPW演習

(リハビリテーションと
生活空間デザイン)

2016年

1月予定

IPW演習(緩和医療学)

2月予定

ヒューマンケア体験実習

3月予定

プロジェクト報告会



2015年8月27日(木) ウエスタ川越にて

4大学連携 IPW実習報告会開催

IPW実習は、4大学の学生が6名程度の大学混成チームを作り、県内施設において、利用者さんや専門職の方々にお話をうかがいながら、チームとして援助を必要とする人に“より良い生活のための提案”を考える実習です。学生は実習を通じて、多領域の専門職と連携するノウハウを実践的に身につけます。

今年度は8月27日に川越市で成果報告を行います。学生が実習で見出した「つながる力」とは?

ぜひ会場にて学生の実習成果をご覧ください。と幸いです。

報告会スケジュール

事前申込不要 / 入場無料 / 途中入退場可

8月27日(木) 13:00～17:00

於 ウエスタ川越 (川越市新宿町1-17-17)

13:00～ 実習報告

14:30～ ディスカッション

15:00～ 講評



写真は昨年度の報告会の様子。

Information

本プロジェクトも早いもので、4年目に突入しました。学長会議でも心配されるほど(!?)、多様な取り組みを行っておりますが、プロジェクト終了後に大学連携を継続していくことを見据えて、今年度以降、取り組みをさらにブラッシュアップしていくこととなります。こちらをご覧くださいの皆様方、どうぞ引き続き本プロジェクトにご注目ください!

公式ホームページ、Twitter、
Facebookで情報配信中!

WEB <http://saipe.jp/>

 @saipe00

 <http://www.facebook.com/saipe00/>

